

大和田駅前広場社会実験 チャレンジ大和田 検証結果レポート

社会実験の概要

大和田駅前を今後どのように魅力的にしていけるか、地域の人々が「まちづくりを考えるきっかけ」となることを目的とした社会実験（チャレンジ）です。開催2回目となる今回は、大和田駅周辺に関わる様々な関係者の皆さまのご協力のもと実施し、地元有志の方々が主体となり、各プログラムの企画や運営に取組み新たに駅北口広場の活用にも挑戦しました。

● 空間づくりに向けた検証結果 ●

〈南口広場〉

銀行跡地広場をにぎわいスペース+バックヤードとして活用し
お酒やコーヒーをテーマとしたイベントや
地元商店会のイベントを開催



普段の様子



イベント活用時の様子

検証の結果 このような課題等が分かりました

南口広場のイベント活用

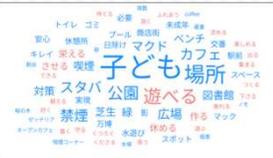
- 今回は、店舗を展開するスペースを昨年度の半分程度に縮小し、残りのスペースは搬入車両のバックヤード等として空間活用したため、昨年度と比較して、にぎわいスペースを縮小したものの、来場者数は変わらず、さらに、バックヤードスペースが使いやすいと、出展者からの評価が高い

南口広場の歩車動線

- 搬入車両を広場の北側（府道側）から出入りするよう設定したが、車両と歩行者の動線が混在する場面あり

その他

- 夜21時ごろまでステージで音楽を流した日があり、会場の周辺住民から、音量に関する問い合わせ
- 駅構内に貼り出した基本構想イメージパースへのご意見ボードでは、南口広場（銀行跡地）に子供向けの空間や緑や憩いといった公園的な魅力ある空間、カフェなどの機能を求める意見が多い



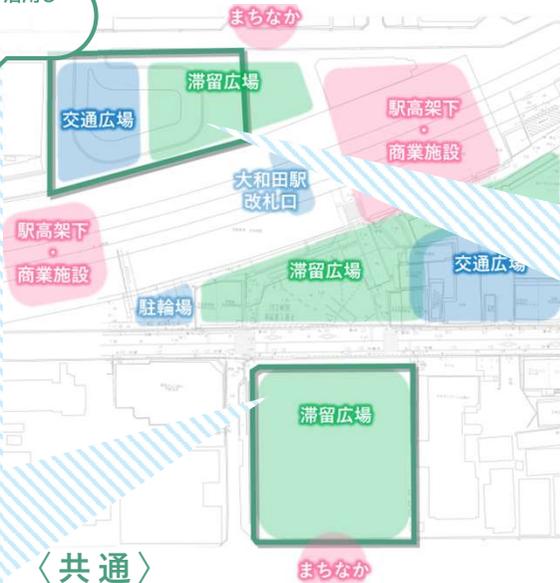
【基本構想イメージパースご意見ボードの結果】

※ユーザーローカルテキストマイニングツール（<https://textmining.userlocal.jp/>）による分析

今後 主にこのような検討を進めていきます

- これまでの社会実験での広場の使い方を踏まえて、**南口で必要なスペース（イベント会場、バックヤード、駐輪・駐車場など）**やそれぞれの**適正な規模の検討**
- 広場内に車両を入れることを想定する場合は、**広場の北側（府道側）と南側（ダイエー側）のどちらを車両の出入口とするか、周辺の道路ネットワークも含めた検討**
- 音量・スピーカーの向き（特に夜間）や広場の使い方については、**周辺住民に配慮したルール・基準づくり**
- 基本構想で示した方向性は、ご意見とも概ね合致しており、引き続き地元の方々等のご意見を踏まえながら検討

出典：門真市大和田駅前広場整備基本構想より（駅前広場の整備方針）



〈共通〉

検証の結果 このような課題等が分かりました

- 昨年度のチャレンジ大和田と比較して、開催日数の増加（2日→3日）、会場を拡大（使用面積は2倍以上）したことにより、来場者数は大きく増加したものの25日（土）の夕方以降は、雨天であったため、来場者数は非常に少ない
- 北口広場の活用に伴って、駅南側に臨時タクシー乗り場を3日間設置・運用し、タクシー利用者からは、広場整備においては、わかりやすい案内や動線を求める意見
- アンケート調査では、駅周辺の一部の高低差等で移動に課題を感じる声
- イベント広場で活用する場合は、電源等の設備の確保が必要

今後 主にこのような検討を進めていきます

- 屋根など、雨天時にも広場を活用できるような設備**があることが望まれ、整備について検討
- 設計においては、使いやすいタクシー乗り場の配置や**バリアフリー環境のニーズへの対応策の検討**
- 設計においては、電源や水道等、必要な**インフラ設備の整備**について検討



開催日時	2025年10月24日(金), 25日(土), 26日(日)
会場	京阪大和田駅 南口広場（銀行跡地） 北口広場（北口ロータリー・高架下旧駐輪場） 駅構内改札前（エル大和田一部）

〈北口広場〉

ロータリーにぐるっと店舗を並べて
子供向けイベントを開催



普段の様子



イベント活用時の様子

検証の結果 このような課題等が分かりました

北口広場のイベント活用

- イベント会場としては、南口と同程度の集客ができ今回の各企画の主催者からは、使いやすい大きさであるという感想が多い

滞留空間の設置

- 店舗などが出ていない時間帯については、広場で滞留する人はほとんどいない

北口広場の歩車動線

- イベント時にもロータリー前道路の通行を妨げないようにする必要がある
- 今回のレイアウトでは、イベント目的でない日常的な利用者の立ち寄りが少ない

南口広場との一体的利用

- 北口と南口で同時にイベントを開催しても、それぞれの会場の音や雰囲気は駅舎によって分断

その他

- 今回の広場活用で、北口のイメージが大きく変わったという感想が多い
- 北口を繰り返し活用していくことで、利用者の認識を徐々に変えていくことができる可能性

今後 主にこのような検討を進めていきます

- 北口をイベント会場として十分ニーズがあると考えられるが、日常的に使われるスペースとしてのニーズは少ない可能性あり、北口広場における適切な大きさの検討が必要**
- イベント利用時の搬入出や来訪者のための車両スペースを、広場内に確保すること**
- 広場計画をする際には、大阪国際大学の学生など**駅北口を日常的に利用する人が立ち寄りやすい動線の検討**
- 駅舎の南北がそれぞれ独立した広場とならないよう**南側の広場～駅構内～北側の広場、を視覚的・空間的に連続した演出の検討**

空間づくりの今後の方針

- 今後、地元ワークショップ等を通じて広場に必要スペースの適切な規模や、配置計画などを検討し、大和田駅前広場の設計を進める
- 関係機関と、南北広場の駅舎との連続性や運用面の課題について協議を進める
- 周辺住民に配慮した広場活用のルールづくりの検討

▶▶▶ 今後、これらを踏まえながら、設計などを進めていきます。

● 組織づくりに向けた検証結果 ●

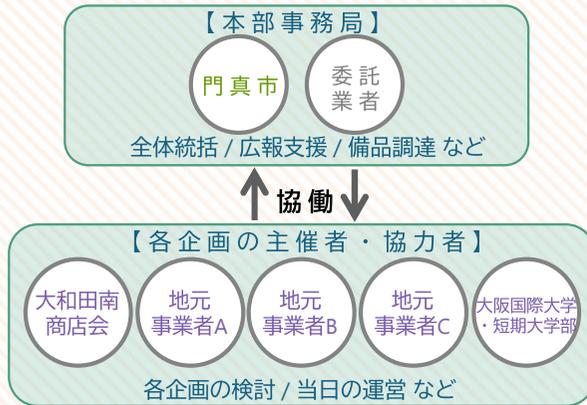
〈体制構築〉

今回の社会実験では、このような検討を進めました

駅前広場供用後の広場との関わり方

- 開催後のヒアリング等の結果では、「将来的には、市と協働して日常的な広場の維持管理・運営を担う組織に参加してみたい」という声や、「供用後も広場利用者（イベント主催者）として、引き続き広場を活用したい」という意向が得られ、供用後も一定の広場活用ニーズがあることが期待できる
- 企画ミーティングや勉強会、当日の運営などを通じて、イベントの各企画の主催者が、将来的な広場との関わり方について考える機会を創出

【今回の実施体制イメージ】



企画ミーティング

事務局と各企画の主催者、また主催者間での情報共有や全体調整を行うためのミーティングを全4回実施



ミーティングで話し合ったこと

- ✓ チャレンジ大和田の目的、意義
- ✓ 南北会場の連携した企画内容の検討
- ✓ 各企画のターゲットやコンセプトの差別化
- ✓ 企画間をつなぐプログラムの検討
- ✓ テントの数や配置、レイアウトの調整など

広場の維持管理運営勉強会

駅前の関係者が集まって、将来的な広場の運営について、事例や手法を勉強

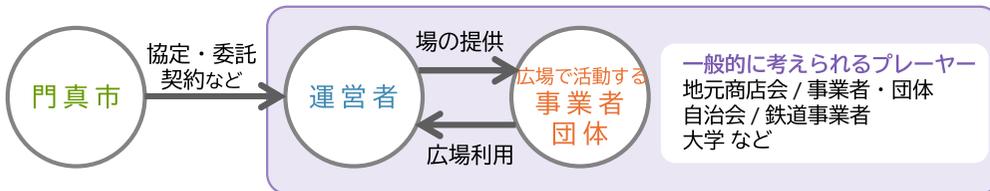
勉強会の内容

- ✓ まちづくり団体が広場の維持管理運営をしている他都市事例の紹介
- ✓ 整備後の大和田駅前広場で想定される維持管理運営体制についての意見交換

組織づくりの今後の方針

- 今後、将来的に目指す体制イメージを見据えながら、次年度以降に地域組織による広場運営の試行を繰り返しながら、地元の方々と協働して、体制を構築していきます。

【目指す体制イメージ】



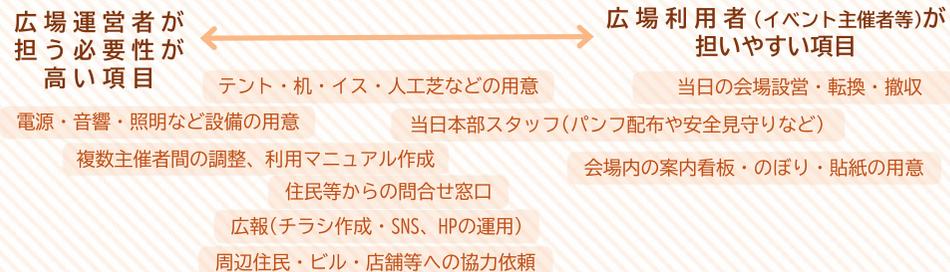
〈広場運営〉

検証の結果 このような課題等が分かりました

広場の運営者と利用者（イベント主催者等）の役割分担

- 開催後のヒアリング等の結果では、今後大和田駅前をイベント用地として活用を促すためには、テントやテーブルを備え付け備品として広場運営者が管理し、イベント主催者に貸し出すなどの条件を整えることが重要（すべてをイベント主催者に調達させるのはハードルが高いという回答）
- 同様に、周辺住民への周知・問い合わせ対応、事前広報やPRなどは、広場運営者等の支援がないと、イベント主催者単独では難しい（効果が薄い）という意向が多い

【広場の運営者と利用者の役割分担イメージ】



出店料による広場運営者の収入

- 3日間の総売上は約220万円で、延べ店舗数は合計で91店舗
- 出店者アンケート結果では、大和田駅前で開催する場合の出店料（出店者がイベント主催者に支払う料金）の目安は、約3000(円/日)程度という回答が多く、売り上げの10%程度という回答もある

今後 このような検討を進めていきます

- 広場運営に係る検証では、将来的に大和田駅前で、**広場を管理・運営する主体と広場を利用する（イベント主催者等）主体の役割分担、活用した場合に想定される収入額**などを踏まえ、地元との連携による広場運営に向けて、検証と試行を実施

広場づくりのスケジュール（想定）

	R8	R9	R10	R11	R12	R13	R14	R15~
銀行跡地	設計	整備	供用開始					
駅南北広場	設計					整備	供用開始	
管理運営体制	体制づくり・運営試行				地域組織での広場運営			

※上記のスケジュールは、あくまで現時点での想定です